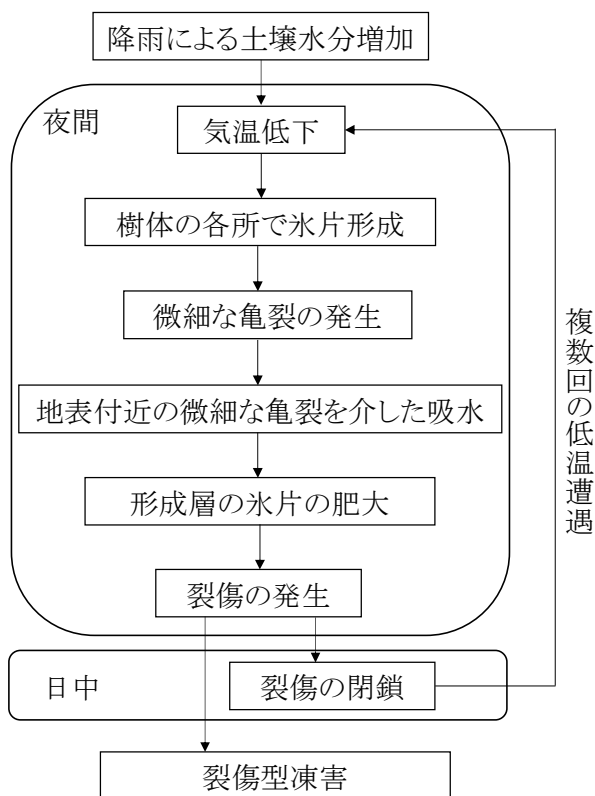


研究成果発表会

2025. 2. 20(木)

幹割れ（裂傷型凍害）発生機構（左下）と幼木の幹割れ（下）
→関連課題（2）初冬に防霜ファンを稼働することで
幹割れ被害を減らすことができる



高橋ら（2023）：茶研報 132

2014年5月19日

‘かなえまる’ 一番茶期の園相（茶研）

→関連課題（3）中生品種‘かなえまる’の
埼玉県における栽培と荒茶の特徴

□成果発表

(1) 茶樹被覆栽培の効果と実践：生産者が知っておくべきポイント

茶業技術研究担当 工藤 健

(2) 初冬に防霜ファンを稼働することで幹割れ被害を減らすことができる

茶業技術研究担当 高橋 淳

(3) 中生品種'かなえまる'の埼玉県における栽培と荒茶の特徴

茶業技術研究担当 上保貴則

(4) 2024年に登録された有機茶園で使用できるチャドクガ防除薬剤について

茶業技術研究担当 宮田穂波

□情報提供

(1) 新害虫チュウゴクアミガサハゴロモに注意

農業革新支援担当 小俣良介

(2) LINE™ アカウントの運用について

茶業技術研究担当 工藤 健

発表要旨はこちらからご覧になれます

